

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第113回本部会議 記録

日 時／令和4年6月10日（金）
16：00～：16：22
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第113回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。まずスライド1、主な指標の状況ですけれども、昨日、6月9日時点で、新規感染者数は、今週先週比で引き続き1を下回っておりまして、人口10万対の新規感染者数は、札幌市130.1人、札幌市を除く地域で118.1人、全道で122.6人と、いずれの地域も減少が継続しておりまして、療養者数も同様の傾向でございます。

また、病床使用率も札幌市15.5%、札幌市を除く地域11.0%、全道12.4%と、引き続き減少が続いております。

続いてスライド2です。各圏域の状況を見ますと、新規感染者数は、オホーツク圏を除く全ての圏域で先週比が1を下回っておりまして、減少が継続しているほか、病床使用率も同様ですが、オホーツク圏を除く全ての圏域で、引き続き減少している状況でございます。

続いてスライド3、総評です。医療提供体制です。療養者数は、減少傾向が続き、人口10万対210.4人。病床使用率も12.4%と、減少傾向が継続し、4月以降の感染拡大前の水準まで減少しております。

感染状況です。新規感染者数は、人口10万対122.6人。22日連続で先週比が1を下回っておりまして、減少傾向が続くものの、地域によっては、先週比が1を上回っている状況でございます。年代別では、30代以下の割合が約6割と減少する中、60代以上が1割を超えております。

今後の対策です。新規感染者数の減少傾向が続くよう、3つの行動の実践や、ワクチン接種促進の働きかけを、「感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願い」によりまして、その実践を呼びかけてまいります。

保健・医療提供体制の確保は、国の通知の下、その点検や強化に取り組みまして、4月に医療機関と調整が整った14床を最大確保病床数に追加してきた中、その後も調整を継続しておりまして、今般、新たに65床を追加して、2,212床となったところであり、今後とも感染拡大に備えまして、医療提供体制の強化に取り組んでまいります。

続いてスライド4、総評の2です。道の接種センターでのモデルナワクチンの3回目接種は、5月29日をもって終了したところでございまして、2月から3月には高齢者を中心に、4月以降は幅広い年代に接種し、全体で1万回以上接種したところです。なお、引き続き、このセンターで、ノババックスワクチンの接種に取り組むほか、若年層をはじめとする接種の促進に向け、様々な媒体も活用しながら働きかけを行ってまいります。

次に、ノババックスワクチンは、6月5日から接種を開始したところでございまして、未

接種の方を含め、3回目までの接種を終えていない方に接種の検討をいただくよう、引き続き市町村と連携し、丁寧な情報提供を行うなど、接種促進に向け取り組んでまいります。

また、4回目接種は、7月から8月にかけて、道内の接種対象者がピークになると見込まれる中、一部の市町村では、開始時期を未定としておりますので、希望する方が適切な時期に接種できますよう、市町村の支援に努めてまいります。

続いてスライド5以降について、何点か主要な動向などを補足説明いたします。

少しスライドを飛ばしまして、スライド20をご覧くださいと思います。スライド20の棒グラフの右側ですけれども、新規感染者は、いずれの年代も5月中旬以降、急激な減少傾向にあることがはっきりとわかると思います。

続いてスライドの23をご覧くださいと思います。年代別では、30代以下の割合が66%と徐々に減少している中、60代以上は12.1%と1割を超え、若干増加傾向にある状況でございます。

次に、スライドの24をご覧くださいと思います。集団感染の発生状況です。集団感染の発生は、総じて、件数、また人数ともに減少してきている状況にございまして、これらは新規感染者数の減少にも寄与していると思われま。

続いてスライドの25をご覧くださいと思います。ワクチン接種に関しまして、3回目接種の状況ですけれども、6月8日現在、VRSベースで約324万人、接種率は62.0%。このうち65歳以上の高齢者の方は、約149万人で、接種率は89.2%。その下になりますが、小児の接種率は、1回目18.9%、2回目15.4%と、ともに全国を上回る状況でございます。

続いてスライド26をご覧くださいと思います。全道の3回目接種の年代別の状況ですが、65歳以上で89.2%と、高い水準にありますものの、10代では26.5%にとどまっている状況です。また、20歳代、30歳代の接種率ですが、全国の接種率を上回ってはおりますものの、依然、他の年代よりは低い状況にありまして、若年層の接種の更なる加速化に向け、市町村の取組を積極的に支援してまいります。なお、各年代別の3回目接種率の推移は、後ほどスライド27をご覧くださいと思います。

次にスライドの29をご覧くださいと思います。4つ目の丸になります。3回目接種により、感染予防や重症化予防の効果が回復するとされており、重症化リスクの高い高齢者をはじめとした、これまで3回目接種を受けていない方への情報提供などにつきまして、市町村と連携し、適切に取り組んでまいります。

続いてスライド30をご覧くださいと思います。道の接種センターでは、道医師会をはじめ、札幌大、道薬剤師会、看護協会などのご協力の下、幅広い世代への接種の加速化を図るため、モデルナワクチンの3回目接種を進めてきたところでございまして、先月29日にこれらを終了したところでございまして、全体で1万回以上の接種を進めたところで

スライド31をご覧くださいと思います。道の接種センターで、6月5日から毎週日曜日実施しております、ノババックスワクチンの接種は、既に6月分の予約枠を満たしている中ですが、その接種回数別の予約割合を申し上げますと、1回目接種の方が47.3%で、全体の半数程度を占めておりまして、2回目が15.3%、3回目が37.3%となっております。

また、次の予約ですが、7月3日（日）接種分を、6月14日（火）から受け付ける予定としてございます。

最後にスライドの32をご覧くださいと思います。重症化予防を目的に、60歳以上の方や、18歳以上で基礎疾患を有する方などを対象としまして、5月25日から順次開始され

ております4回目接種ですが、3回目接種からの間隔が少なくとも5ヶ月経過した後の接種とされておりまして、道内では7月から8月にかけて接種対象者がピークになると見込まれますので、接種を希望する方が適切な時期に円滑に接種できますよう、地域実情に即した更なる市町村支援に努めてまいります。

その他のスライドにつきましては、本日の説明に関するデータや情報でございますので後ほどご覧いただきたいと思っております。資料1の説明は以上となります。

続きまして資料2をご覧いただきたいと思っております。先ほどの資料1、道内の感染状況等について、専門家や有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしてございます。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見いただいております、その主なものについてご紹介いたしますと、1から3までですが、総じて、感染予防対策の徹底ですとか、ワクチン接種の啓発、こういったものをお願いしたいと、そういうご意見が寄せられておりまして、こうした面につきましては、今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして札幌市の感染状況についてご説明をいたします。

それでは最初のスライドをご覧ください。新規感染者の推移でございますが、1週間の合計につきまして、昨日の6月9日時点で、2,552人でございます。人口10万人当たりでは130.1人で、5月14日は411人だったんですけれども、5月の中旬と比べますと、その3割程度まで下がってきておりまして、大きく減少しているところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。入院患者の推移でございますけれども、黄色い棒グラフ、入院患者数でございますが、昨日の時点で99人となっております、100人を下回っている状況でございます。新規の入院患者数の大半は軽症者でありまして、病床の回転も良く、6月に入ってから病床使用率は20%を安定して下回る状況が続いているところでございます。重症者の折れ線グラフは赤ですけれども、ゼロが続いております。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数のスライドでございます。直近の1週間では12,771件の検査を実施してございます。陽性率は20%と、これも減少している状況でございます。今後も人の移動が増えることが見込まれる中、感染者を増加に転じさせないためにも、引き続き手指の消毒や換気、それから混雑した場所や会話時のマスクの着用など、場面に応じた基本的な感染対策の徹底が重要と考えております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から順次発言をお願いいたします。石狩振興局長からお願いいたします。

【濱田石狩振興局長】

資料4により説明させていただきます。初めに、札幌市を除く管内の感染状況でございますが、右側のグラフでございますとおり、今年1月から急拡大が始まりました新規の感染者数は、2月10日に463名の最多となりまして、それ以降は徐々に減少し、4月中旬までは100から200人台で推移しておりました。その後、人の動きが活発になるゴールデンウィーク前から300人台を超える感染状況となり、5月12日に4月以降最も多い344名となりましたが、以降は徐々に減少傾向となり、現在は10万人当たりの新規感染者は、前の週に比べて77%と減少傾向が続いております。

また、高齢者施設などにおける集団感染も、2月と5月には同時に11ヶ所の現地支援対策本部を運営するなどの対応に迫られ、その後も切れ目なく発生してきておりますが、本日までには2ヶ所まで減ってきたところでございます。

次に振興局における対応でございますが、江別と千歳、両保健所におきましては、新規感染者の急増に伴い、振興局各課から職員を派遣しておりますのに加え、本庁や市町村からの職員派遣のほか、自宅療養の方々の健康観察業務を一部外部委託するなど、体制強化を図ってきておりました。しかし、5月下旬以降の感染者の減少に伴い、体制を徐々に縮小してきているところでございます。この間、関係機関の方々からのご協力に対しまして、改めてお礼を申し上げたいと思っております。ありがとうございました。また、昨年自宅療養者が急増した際には、オンライン診療や薬剤処方などに対応できる医療機関に限られておりました。医療提供体制の強化が大きな課題となりましたことから、保健所では、地元医師会や訪問看護ステーションなどの関係機関との勉強会や協議を重ねまして、本年1月に自宅療養者への医療提供マニュアルを作成しておりました。このため、年明けからの感染拡大にあたりましては、このマニュアルに基づき、個々の自宅療養者の状態に応じた対応を連携して取ることができたところでございまして、今後も、マニュアルの中身を検証しながらブラッシュアップしていく予定でございます。

次に、管内の市町村との連携にあたりましては、各首長の皆様とは日頃から感染状況について共有を図っておりますとともに、全ての首長さん達が集まる機会に、管内全体での危機感を共有し、感染拡大防止対策の取り組みや、ワクチン接種の促進などについて働きかけを行ってきたところでございます。また、住民の皆様に対しては、本庁指揮室とも連携を図りながら、SNSやホームページにおきまして、3つの行動などの感染拡大防止に向けた周知に加え、北海道ワクチン接種センターでのノババックスワクチンの接種や、集団接種などに関する情報発信を行っておりますほか、ゴールデンウィーク前には、管内市町村の中心部やJRの駅など、人が多く集まる場所での広報車による注意喚起実施や、関係団体に対し、第三者認証店の利用と申請の促進に向けた働きかけを行うなど、様々なツールを活用しながら情報発信を続けてきたところでございます。さらに若い世代に向けた取り組みといたしまして、当振興局と連携事業を実施しております、管内の大学のご協力をいただき、振興局の職員が講義に赴きまして、3つの行動の取組及び3回目ワクチン接種の検討について、学生さん達に直接協力を依頼してまいりました。

石狩振興局といたしましては、地域住民の皆様のお安全安心の確保のため、管内の市町村と引き続き緊密な連携と情報共有を図りながら、住民の皆様への呼びかけ、特に若い世代に向けた情報発信など、感染拡大防止に向けた取組を今後も継続して行っていると考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

このほか、ご発言はございませんか。なければ本部長から。

【本部長（知事）】

本日の新規感染者数は、942人となっております。新規感染者数の減少傾向が続き、昨日の人口10万人当たりでいいますと、122.6人となりました。また、病床使用率についても、減少傾向が継続して、12.4%となりまして、4月以降の感染拡大前の水準を下回る状況になりました。新規感染者数、病床使用率、このいずれも今年度に入って最も低い水準になっています。道民の皆様のご理解とご協力に対して、心から感謝を申し上げます。

道民の皆様には、引き続き感染の広がりを抑えていただくよう、感染拡大防止に向けた3つの行動の実践、そして、ワクチン接種を検討いただく、このことをお願いいたします。

特に20代、30代の若年層の3回目接種については、全国よりも上回って推移をしているというものの、依然、他の世代に比べますと低い水準にあります。各本部員、地方本部員におきましては、引き続き、市町村とも連携して、3つの行動の実践と併せて、積極的に接種を検討していただくよう呼びかけをお願いします。

現在の感染状況については、今お話したとおり、減少傾向が続いているところでありますが、道としては、今後の感染拡大に備えた医療提供体制の強化にも継続して取り組んできたところであります。医療機関のご理解とご協力のもとで、この度、最大確保病床を65床追加し、2,212床としたところであります。引き続き、医療提供体制の確保に万全を期してまいります。

ワクチンの接種について、6月5日から、ノババックスワクチンの接種を北海道ワクチン接種センターにおいて開始したところです。6月分については、既に予約が一杯という状況になっているわけでありましたが、7月3日の接種分については、6月14日から予約受付を開始します。それ以降の接種分についても、順次予約を受け付けていきます。未接種の方も含めて、3回目までの接種を終えられていない方については、ぜひ接種を検討していただきたいと思っております。また、北海道ワクチン接種センターでのモデルナワクチンによる3回目の接種については、5月29日で終了をいたしました。2月から5月までの36日間で1万回以上の接種を行うことができました。この間、多大なるご協力をいただきました、北海道医師会をはじめ札幌医科大学、薬剤師会、看護協会などの関係者の皆様に対して、心から感謝を申し上げます。今後、4回目の接種が本格化していきます。道内でも順次接種が開始されていくわけでありましたが、7月から8月にかけて、接種対象者がピークになるというふうに見込まれています。このため、希望される方が円滑に接種を受けられるよう、4回目接種の促進に向けて、道の集団接種会場の活用も含めまして、検討するように指示をいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第113回本部会議を終了します。

(了)